

子宮頸がん検診のおすすめ

子宮頸がんは、早い段階では自覚症状が殆どなく、進行すると症状がでることが多くなります。月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血があるなどの不正出血がある場合や、月経が不規則などの症状がある場合には、検診を待たずに医療機関を受診する必要があります。

1 子宮頸がんの状況

日本全国で1年間におよそ11,000人が子宮頸がんと診断されています。20代後半から増加して、40歳代でピークを迎え、その後横ばいになります。

2 子宮頸がん検診の方法

子宮頸がん検診は20歳以上、2年に1回定期的に受診することが推奨されています。

子宮頸がん検診として「効果がある」のは「**細胞診**」だけです。子宮頸部(子宮の入り口)を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を採り、異常な細胞を顕微鏡で調べる検査です。HPV検査を含む方法(HPV検査単独・HPVと細胞診の同時併用法・HPV検査陽性者への細胞診ドリアージ法)は死亡率減少効果の有無を判断する証拠が不十分とされています。

※HPV(ヒトパピローマウイルス):持続感染により子宮頸がんを発症するといわれています。

3 子宮頸がん検診の精密検査

検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は、必ず精密検査を受けてください。

子宮頸がん検診における一般的な精密検査はコルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV検査などを組み合わせて行います。

・コルポスコープ下の組織診

コルポスコープ(腔拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取して悪性かどうか診断します。

・HPV検査

子宮頸部から細胞を採取し、HPVに感染しているかどうかを調べる検査です。